

## 富田朝己のプロフィール

### [生い立ち]

「戦争による大阪爆撃、疎開、厳しい生活を、多くの先輩や仲間の支援で乗り越え生きることができた人生。」

- 1939 S14. 1. 06 大阪市西中島南方にて富田家の長男として誕生
- 1943 S18. 10 島根県黒松村の遠縁を頼り母子で疎開
- 1944 S19. 4 島根県黒松村国民学校入学
- 1945 S20. 12 疎開から帰阪、八尾市安中町へ八尾市立安中国民学校転入
- 1947 S22. 4 八尾市立龍華小学校へ転入
- 1951 S26. 3 八尾市立龍華小学校卒業
- S26. 4 八尾市立龍華中学校入学
- 1954 S29. 3. 21 八尾市立龍華中学校卒業
- S29. 4. 01 大阪府立今宮工業高校機械科入学（夜間部）
- 1955 S30. 4. 01 大阪市立都島第2工業高校転入（電気科）
- 1958 S33. 3. 02 都島第2工業高校卒業、
- S33. 4 大阪府立大学短期工業学部電気工学科入学  
(業務多忙で中途退学)
- 1963 S38. 11 定期検診で結核発見、京都厚生園入院休職  
(結核：右上葉切除手術)
- 1964 S39. 9 9ヶ月闘病、復職、
- 1968 S43. 5. 13 妻：大西和子と結婚（松下労働会館結婚式場で挙式）
- 1969 S44. 9. 28 長女誕生

- 1970 S45.10.4 長男誕生
- 1971 S46.4.14 義父 大西元治没 77歳
- 1972 S47.9.13 次女誕生
- 1973 S48.4.14 父 富田捨吉没 62歳
- 1979 S54.11 研修中に松下病院入院  
(十二指腸潰瘍：胃 2/3 と十二指腸切除)
- 1984 八尾市植松町から枚方市香里ヶ丘 12 丁目へ転宅
- 1999 H11.5.08 義母 大西コイエ没 89歳  
H11.8.25 母 富田静子没 90歳
- 2014 H26.7.29~8.7 右甲状腺、副甲状腺腫瘍摘出手術（関西医大枚方）
- 2015 H27.6.16~25 左甲状腺腫瘍摘出（関西医大枚方）
- 2018 現在 79歳6ヶ月

## **[職歴]**

「憧れの松下電器に入社し、60歳まで、この間44年10ヶ月。

松下道場で人生の大半を鍛えていただきました。松下幸之助創業者や城坂元副社長など、  
ご指導いただいた多くの先輩と仲間にご感謝申し上げます。」

- 1954 S29.3.23 松下電器産業株式会社入社、第1事業部研究課配属(無線研前身)  
(セラミックコンデンサ開発と製造実験担当) 高圧ガス炉焼成を担当  
室温 50℃の職場で奮闘 (城阪 Ka、西尾 S から薫陶受ける)
- 1959 S34.10 セラミックコンデンサは部品事業部に移管 (最終移管まで残る)
- 1960 S35.4.01 研究部製造実験課焼成班班長に任命

- 1961 S36.5 部品事業部コンデンサ工場製造 3 課管理係班長に任命  
(中村正男係長のもとで生産管理を担当)
- S38.11 検診で結核発見、京都厚生園入院休職 (結核：右上葉切除手術)
- 1964 S39.9 9 ヶ月闘病、復職、
- 1965 S40.5 宮崎松下電器派遣  
(セラミックコンデンサ事業の地方展開の立上げ指導)
- 1966 S41.5 宮松から部品事業部コンデンサ工場製造 3 課焼成班復帰
- 1967 S42.8 休職：松下電器産業労働組合専従  
(この間 18 年間休職、松下電器産業労働組合専従役員)
- 1984 S59.9.16 復職、松下電子部品 (株) コンデンサ事業部セラミックコンデンサ部  
(瀬越部長のもと、懐かしいセラコンに原職復帰)
- S59.11.16 参事昇格、管理係課長
- 1986 S61.3.21 セラミック事業部セラミックコンデンサ部部長就任  
(宮崎松下・北海道松下担当)
- 1987 S62.5.01 セラミック営業部長を兼務
- 1988 S63.10.1 セラミック事業部特別プロジェクト室プロジェクト推進担当参事
- 1989 H1.5.1 松下電子部品(株)営業本部松下寿直販営業部長  
(西条市単身赴任、松下寿の 8 事業場担当 50 歳、松下寿のスリム経営を体験)
- 1992 H4.5.1 営業本部商品 5 部長：音響部品営業部長  
(スピーカの営業を 3 年、マルチメディア対応 SP など新分野に挑戦)
- 1995 H7.1.17 阪神淡路大震災発生
- H7.2.1 営業本部商品物流部長就任 (震災対策に全力)

(社内物流合理化PJ発足に後をゆだねる)

1996 H8.3.1 営業本部対内営業部ビデオ・オーディオ担当部長 (門真)

(脱AVの全社風潮の中での担当 デジタル商品への対応に賭ける)

1997 H9.8.16 営業本部対内営業部 (福岡) 九州松下電器担当兼務

(時間が足りずに思いを残しながら卒業)

1999 H11.1.20 松下電器産業株式会社定年退職